

学校法人北星学園  
北星学園大学短期大学部  
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日  
財団法人短期大学基準協会

## 北星学園大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 北星学園
理事長名	杉本 拓
学長名	金井 新二
A L O	中村 浩
開設年月日	昭和26年4月1日
所在地	北海道札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

## 設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
英文学科		120
生活創造学科		80
	合計	200

## 専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

## 機関別評価結果

北星学園大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

## 機関別評価結果の事由

### 1. 総評

平成 19 年 6 月 26 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、建学の精神を具現化するため、「人間性・社会性・国際性」の育成という三つの観点から、「識見を備え責任を自覚し、社会に貢献できる独立人を養成すること」を教育目標とし、“Shine Like Stars in a Dark World”と象徴的に表現することで、建学の精神が学生に広く理解されることを目指している。

英文学科、生活創造学科の教育課程は、学科の特色を生かし多彩で充実している。教養教育と専門教育のバランスも取れて、学生の意欲が高まり、学習効果も期待できる教育内容である。習熟度別のクラスの導入、少人数クラスによる学習、担任制度や学習アドバイザー制度の拡充、授業評価の実施と公表など、改善の努力が組織的に不断に行われている。

教員は授業及び研究活動に意欲的に取り組んでいる。「特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）」や「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」に採択されるなど英文学科は社会的評価を得ている。退学・休学者数は少なく、教職員の短期大学教育への取り組みに対する強い熱意がみて取れる。

学生生活支援体制も整備され充実している。クラブ活動などが活発で、健康管理、メンタルケアやカウンセリングなどのサポート体制が充実し、キャンパス・アメニティに配慮がされている。学内奨学金や減免措置が充実しており、経済的支援の配慮がされている。特色ある進路支援が展開されており、就職希望者、進学希望者の双方に対して全学体制で実施され、就職率も高く成果をあげている。

学長は必要に応じて教学の運営に関して短期大学部長と連携を保ち、リーダーシップを発揮している。教育目的に応じた施設は整備され維持管理もされている。

財務状態は学校法人全体としてはおおむね健全である。私立学校法の規定による財務公開は適切に行われている。

自己点検・評価のための規程は整備され、委員会も設置されており、定期的な自己点検・評価報告書は、平成 5 年度以来、毎年作成され公表されている。自己点検・評価の結果が、教育課程改革、教育研究、学生指導、課外活動の活性化などに結びついている。結果の有効利用となるプラン・ドゥ・チェック・アクション（PDCA）のサイクルが確立している。

## 2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

### (1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- プロテスタンティズムを建学の精神とし、従来から教育目標として「人間性・社会性・国際性」の育成を掲げていた当該短期大学が、「教育の基本的理念は、知的誠実」ととらえ、「識見を備え責任を自覚し、社会に貢献する独立人を養成すること」と建学の精神を改め時代によりふさわしい形で具現化した。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 英文学科の特色 GP、現代 GP に採択された取り組み、実用英語技能検定の優秀な学校としての「文部科学大臣奨励賞」の受賞、生活創造学科の「履修モデル」の設定など教育課程が、体系的に編成され、改善への努力も不断にされ、社会的評価も受けている。

#### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 施設・設備ともにすばらしい環境であると同時に、学生が活用しやすいサービス体制が整っていて、有効活用されている。

#### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 文部科学省認定の実用英語検定の優秀な学校として、「文部科学大臣奨励賞」の受賞や「仕事で英語が使える日本人の育成」部門における取り組みが現代 GP に採択されるなど教育目標達成への組織的努力がみられる。
- 就職支援課と教員の連携による学生個々への熱心な進路支援が着実な効果をあげている。

#### 評価領域Ⅴ 学生支援

- 個別指導、学生の視点に沿ったガイダンス、学習アドバイザー制度、学生のレベルや希望に応じた講座開設や履修指導の推進など、学習支援が組織的に適宜行われている。

## 評価領域Ⅵ 研究

- 英文学科では文部科学省の特色 GP や現代 GP の採択、「CALL を利用した英語自主教材の研究と開発」というテーマで併設の四年制大学教員との共同研究、生活創造学科では「入学前教育」、「キャリア教育」などのテーマで共同研究が行われ、当該短期大学として新たな課題に取り組んでいる。

## 評価領域Ⅶ 社会的活動

- キリスト教に基づいた教育理念の具現化の場として①キリスト教の理解、②ボランティア、③平和の実現、④地域社会との連携、という四つの柱を定め、全学的に認知された活動を行っているスミス・ミッションセンターを機能させ、学生のボランティア活動などの社会的活動が促進されるようなプログラムやシステム作りがされ、活発な活動が展開されている。

## 評価領域Ⅷ 管理運営

- 専任教員の研究費は、個人に一律に配分される額と業績点によって傾斜配分される額の二種類があり、さらに「特定研究費」という増額措置もある。研究活動の活性化のために資する条件が整備されている。

## 評価領域Ⅹ 改革・改善

- 各部局から提出された自己点検・評価報告書に自己点検・評価委員会からの評価を添えてフィードバックしているシステムは優れている。ファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動やスタッフ・ディベロップメント (SD) 活動にも役立ち、全学をあげての改革・改善に資するものである。

### (2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

## 評価領域Ⅱ 教育の内容

- 講義要項(シラバス)は、「講義のねらい」、「授業のながれ」、「成績評価・注意事項」、「教科書・参考書」の項目で統一されているが、各科目担当者間の記載の仕方に格差があり、今後は編集段階で各科目担当者に統一性を求めると講義要項(シラバス)は更に充実し、学生の便宜に供するものとなる。
- 学生による授業評価が隔年ということであるが、在学期間が2年間という制約を考慮すると、短期大学における授業改善に役立つ方向での検討が望まれる。

## 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生に対する評価の取り組みが今後組織的にされれば、教育の達成度や効果の客観

性が増し、更に向上するものと期待される。

#### 評価領域Ⅸ 財務

- 図書処分の規程を整備し、他の固定資産管理と同様に取り扱うことが望まれる。

#### (3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

### 3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

#### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

明治 20 年当該短期大学の前身となる「スミス女学校」開設当初からプロテスタンティズムを建学の精神とし「知的誠実」を教育の基本的理念としてとらえ、女子教育・英語教育を実践し、平成 14 年当該短期大学が男女共学になっても建学の精神は維持されている。

建学の精神を具現化するため、従来から掲げてきた「人間性・社会性・国際性」の育成という三つの柱の観点から、「識見を備え責任を自覚し、社会に貢献できる独立人を養成すること」を教育目標とし、“Shine Like Stars in a Dark World”と象徴的に表現することで建学の精神が学生に広く理解されることを目指している。

チャプレンを中心とするスミス・ミッションセンターを設置し、教育理念を全学的に具現化する活動を展開するとともに、当該短期大学の二つの学科では教育目標にふさわしい教育内容が盛り込まれ、理念に貫かれた正課・課外の活動が展開されていて高く評価できる。

#### 評価領域Ⅱ 教育の内容

英文学科、生活創造学科の教育課程は、学科の特色を生かし多彩で充実している。教養教育と専門教育のバランスも取れており、特に英文学科の特色 GP や現代 GP における学習内容、生活創造学科における「履修モデル」の設定やキャリア教育など、教育目的・教育目標が反映されている。学生の意欲が高まり、学習効果も期待できる教育内容となっている。また教育方法としても、習熟度別のクラスの導入、少人数クラスによる学習、担任制度や学習アドバイザー制度の拡充など、改善の努力が不断に行われている。隔年ごとの学生による授業評価の実施や図書館などにその結果を配置し閲覧できるよう公表している。

非常勤教員対象に毎年定期的に説明会を開催し、教育目的・教育目標を確認し、その実現に向かって組織的に取り組んでいる。

### 評価領域Ⅲ 教育の実施体制

専任教員数、助手などの数は望ましい状況であり、教員採用、昇任は当該短期大学の定めた規程どおり適切に行われていて、年齢構成もバランスが取れている。特色 GP や現代 GP に採択されるなど英文学科は社会的評価を得ている。学科会議や教授会も適切に開催され、専任教員が教育及び学生相談や指導に組織的に取り組んでいる。

教育研究に使用する情報機器などの施設・設備は併設の四年制大学との共用で充実し、学生の教育・指導には十分な教育環境にある。すべてにおいて短期大学設置基準を上回っている。校舎、施設設備は、障がい者への対応も十分にできている。図書館は、蔵書数をはじめ、文献検索ガイダンス、開館時間や専任スタッフ数などサービス体制も充実している。英語の多読本の充実など授業と連動し、図書館独自のリーフレットを作成するなど、学生、教員のニーズをとらえた運営に努め、学生の活発な利用を促し、学習、教育、研究を支援する体制が確立されている。

### 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成度については、「単位認定の状況表」によると履修人数、単位認定の方法、単位取得状況、成績評価などは、おおむね問題はない。教育目標を達成するために、担任制や少人数指導を取り入れたきめ細かな指導や授業内容・教育方法に関する改善への組織的取り組みが教育効果をあげ、特に退学・休学者数は少なく、教職員の短期大学教育への取り組みに対する強い熱意がみて取れる。アドバイザー制度、カウンセラー、事務職員との連携により学生の相談に対応している。現在正課内における取得可能な免許・資格はないが、資格取得につながる組織的取り組みの努力がみられる。就職支援課における学生個々への支援も熱心に行われ、就職率も高い。四年制大学への編入は、年度により変動はあるが、編入先との情報交換がなされ、学生への事後指導も行われている。

### 評価領域Ⅴ 学生支援

広報・入試事務体制が整備され、短期大学案内、募集要項など、受験生に対して入学に関する必要な情報が分かりやすく開示されている。入学手続き者に対し十分な支援が実施されている。各種のガイダンスや宿泊オリエンテーションなどを通じて適切な支援が新入生に行われている。

「学習アドバイザー制度」や「履修モデル担任制」が整備され、習熟度の低い学生、優秀な学生の双方に配慮した学習支援が組織的に行われ、教員による個別指導に力を入れオフィス・アワーの制度も確立している。

学生生活支援体制も整備され充実している。クラブ活動などが活発で、健康管理、メンタルケアやカウンセリングなどのサポート体制が充実し、キャンパス・アメニティに配慮



がなされている。学内奨学金や減免措置が充実しており、経済的支援の配慮がされている。特色ある進路支援が展開され、就職希望者、進学希望者の双方に対し全学体制で実施され、成果をあげている。様々な施策によるきめ細かい支援がなされている。

#### 評価領域Ⅵ 研究

正課、正課外ともに学生指導に忙しい中で、教員の研究活動は意欲的に行われている。教員の論文発表、学会発表などがなされ、研究活動は教員情報システム（ウェブシステム）により公開されている。また、英文学科では「特色 GP」、「現代 GP」の採択に加えて、併設の四年制大学の教員とともに「CALL を利用した英語自主教材の研究と開発」というテーマで共同研究を実施し、生活創造学科では「入学前教育」、「キャリア教育」など共同研究テーマとして新たな取り組みを実施し、研究紀要の『北星論集』に収録されている。また教職員の研究活動のための条件整備として、研究費、備品、図書類、研究室など研究環境は大変恵まれている。日常的な学務の負担は大きいですが、授業担当コマ数の上限を設けるなど研究日は確保されている。教員特別研修期間を取得できる制度があり活用されている。

#### 評価領域Ⅶ 社会的活動

学生自らが地域社会との活動を通して建学の精神や教育理念を理解することを重視している。スミス・ミッションセンターを設置し、その活動計画には募金活動や学外奉仕活動など、学生の社会的な活動が促進されるようなプログラムが組まれている。当該短期大学生の参加率も高く、活動を積極的に行っている。学園として地域社会との交流を促すシステム作りがされ、エクステンションセンターやエクステンション課を設け、行政、教育機関、商工団体などと連携した各種の講座が開かれるなど、地域社会に組織的に貢献している。

各学科の教育目的を具現化するため、英語研修を中心とした国際交流も行われていて、海外への短期留学やホームステイに学生は意欲的に参加している。教員も長期在外研究や国際会議発表、調査研究など活発に行っている。

#### 評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人としての公共性及び運営の適切性と安定性の確保を目指し、管理運営に関する諸規程を整備し、理事会、評議員会の学校法人の管理運営体制は確立され、監事の機能も有効に働いている。理事会は適切に運営されている。教授会などの運営体制は各種委員会や各学科との連絡も密接であり十分に機能し確立している。学長は必要に応じて教学の運営に関して短期大学部長と連携を保ち、リーダーシップを発揮している。

事務組織は併設四年制大学及び当該短期大学の事務局として組織され、規程によって運営されている。その事務分掌は法人・大学の運営全体に支障のないように配慮されている。

人事管理については就業規則に基づき適正に行われている。キャンパスの移転による事務組織の統合から事務組織の改編や業務見直しを行い、事務処理の効率化やサービスの向

上を目指している。職員研修制度は、職員の個々の能力開発と人材育成の取り組みがされている。

#### 評価領域Ⅸ 財務

中・長期計画が策定されておらず、予算編成は基本的に抑制傾向にある。中・長期の財政計画を策定し、短期の財政計画との整合性が望まれる。

教育目的に応じた施設は整備され、適切に維持管理されている。

学生の定員充足率は100パーセント超となっている。人件費比率が高いが、財務はおおむね健全である。私立学校法の規定による財務公開は適切に行われている。

固定資産に係る規程は整備されているが、図書処分に関する規程がない。危機管理については、その対策が進められ、災害対策、防犯対策、コンピュータシステムのセキュリティ対策は適切である。また、省エネルギーについても対策がとられている。

#### 評価領域Ⅹ 改革・改善

自己点検・評価のための規程は整備され、委員会も設置されている。自己点検・評価に関する検証には、各学科、部門、委員会などにおいてその責任者を中心にして多くの教職員がかかわり、自己点検・評価報告書は、平成5年度以来、毎年度作成され公表されている。この自己点検・評価の結果が、教育課程改革、学生指導、課外活動の活性化などに結びついている。これは、結果の有効利用となるPDCAのサイクルの確立や改革・改善に積極的な意欲を示しているものといえる。